

第3回松戸市2020年東京オリンピック・パラリンピックやさシティ おもてなシティ推進会議 議事録

1. 日 時 平成28年2月9日(火) 13時30分～
2. 場 所 中央保健センター 地下1階会議室
3. 出席者 別紙のとおり(委員11名のうち8名出席)
4. 傍聴者 なし(傍聴希望者なし)
5. 会議経過 (1)開会 13:30
(2)長江会長挨拶
(3)報告1 27年度 オリンピック・パラリンピックに関連する取組みについて
(4)議題1 松戸市2020年東京オリンピック・パラリンピックやさシティ おもてなシティ推進 第1次行動計画案について
(6)閉会 15:30

6. 議事概要

○長江会長

まず松戸市が27年度におこなったオリンピック・パラリンピックに関連する取組みについて事務局のほうから報告をお願いします。パワーポイント資料で写真なども交えてわかりやすく作っていただきましたのでご覧ください。

○事務局

27年度における取り組みの報告、
第1次行動計画(案)の説明

○長江会長

ありがとうございました。まず、平成27年度事業報告についてご質問ご意見ございましたらどうぞ。

たとえば、佐藤真海さんのトークショー、会議の中で「実施しました、ちゃんとやりました」という報告だけでなく、できるだけ市民の皆さんに情報発信されているかどうかということで、本日お配りした資料でホームページなども

載せていただきました。私、このトークショーを現場で聴きました。親子連れからおじいちゃまおばあちゃままで幅広い年齢の方がお見えになっていました。大学の大教室での開催でしたが、もっと告知をして多くの方に聴いていただければよかったですと思います。初年度ということで準備にかける時間も無かったのですが大学の社会福祉、介護系学部の先生方などにも協力いただき運営いたしました。

それから、10号館でおこなった外務省のパーティにも参加したのですが、そこでは「松戸に初めて来た」という方や、大使クラスの方も参加されていました。飯沼委員も参加されていましたが、他にもルーマニアとの交流などいろいろやっているのに、市民の方にはなかなか見える化されていない部分があります。しかし、初年度300万円の予算の範囲内で一生懸命やっていただいたと思います。

平成27年度、28年度の2年間で第1次推進計画ということになります。2年目である28年度予算についてはこれから議会で承認されますが、今のところ1,100万円程度となっております。今年度対比プラス800万円のボリュームが今後力を入れていきたい松戸市の思いの部分となります。

本日、委員の皆さんに議論いただきたいのは、この第1次推進行動計画の中の4本の柱、「人材育成」「地域活性化」「国際化」「スポーツ振興」についてです。それぞれの分野で「こんなこともできるよ」「こんなことをやってもらいたい」という切り口で議論いただければ盛り込めることもあるかと思います。

では、太下委員のほうから意見ををお願いします。太下委員は昨年「文化プログラム」について市民劇場で、市民の皆さんに向けて大変わかりやすく講演していただきました。

○太下委員

ではトップバッターで3つ意見を述べさせていただきます。

1つは前回も申し上げたのですが、今日本の中でオリンピックを推進しているところが組織委員会です。現在はエンブレムや競技場の問題でゴタゴタしていますが、ここが今一番力を入れているのが、実は「大学連携」です。どういうことかと言いますと「オリンピックが若者の祭典である」というオリンピズムの原点に立ち返って若者＝大学といかにムーブメントを一緒に作っていくか、ということに準拠しています。そういう点で松戸は4つの大学が市内にあることが特徴と言えます。ある意味では地域資源があるわけです。先ほども4大学が連携してという事例がありましたが、4大学が連携して、街をあげてオリンピックを迎える仕組み作り、市内で作っていくことも大事ですし、更に一度組織委員会とコンタクトを取って今後どのように進めるのかを相談してみるのもいいんじゃないかと思います。

2つめです。第1次行動計画案の最後に、スポーツを身近にするという戦略のひとつとして「サイクルツーリズム」があります。競輪場があるのでサイクリングを重視されているのかと思いますが、単なる観光という観点だけで進めるのではなく、文化プログラムの進める観点もあるのかと思います。例えばアーティストやクリエイターの方で、自転車に関心のある方が独自の視点で松戸の魅力を考え、自分なりのサイクリングコースを提案する。それにより新しい松戸の魅力が自転車を通じて発見される、そういう仕掛けができるのではないかと思います。スポーツとしてだけではなく、文化プログラムとしての観点で、コラボレーション出来るのかなと思います。

3点目として文化プログラムの中に、キックオフイベント「スポーツ・文化・ワールドフォーラム」があり、10月開催となっていますが、これは文化庁も提唱しており、ここがキックオフになると言われているのですが、一方でオリンピックは8月に開会式を行い、競技大会、そして閉会式があります。それからパラリンピックがあります。オリンピックの閉会式の最後に、フラッグハンドオーバーセレモニーというものがあまして、開催都市のリーダーから次の開催都市のリーダーに旗が手渡されます。実はこの旗を受け取った瞬間から、次の開催都市と開催国は文化プログラムが始めていくことになるのです。それが8月21日です。おそらく東京都は旗を受け取ったタイミングで、それなりに大きなイベントを、リオで仕掛けるのではないかと思います。文化庁は10月がキックオフと言っていますが、実際には8月の段階で、日本の文化プログラムが動いていく、日本のオリンピックがここから始まる、というイメージで受け止められる事になるのではないかなと思います。そこで、オリンピックは8月から動いていくという心積もりでいたほうがよいのではないのでしょうか。以上です。

○長江会長

重要なアドバイスとご提案をありがとうございます。今、大学連携とか文化プログラムの観点、また8月から始まるというお話がありました。橋口委員、市内に4つの大学で組織委員会に相談を、というお話もありましたがいかがでしょうか。

○橋口委員

歯学部ということで医療面など大学の特色を活かしたことができるかと思えます。また、学生やドクターなどの人的資源もごございます。ボランティア教育等に関しては、まだまだ根付いておらず、理想として、多くの若者が参加することは出てきていますが、現実的には、ウォーミングアップもできていないと言えます。こちらはゆっくりと働きかけていく事が必要かと思えます。

行動計画は2021年度までとなっていますが、競技者の方は、東京大会が決ま

って、パラリンピックの競技者の年齢が上がるという現実がある。当初 リオで終わりと思っただけ、東京を目指そう、というような。そうすると東京の次の2024年大会が尻すぼみになってしまうのが怖いことです。競技者の雇用等も含めて、2020年でお祭りが終わるのではなく、その先まで考えて行けたらと思います。

○長江会長

スポーツ振興、育成も含めて松戸で取り組めることをぜひ、ということですね。

実は市内4大学は、点在しているんですよ。見える化していない。4大学が連携した取組みをするとき、見える化を進める場所として、松戸駅前にある聖徳の10号館「社会貢献センター」は、協力できると思います。

さて、パラリンピックの選手育成ということも含めて息の長い取組みを、という点で齋藤委員、ご意見はございませんか。

○齋藤委員

高齢化と言われると耳が痛いのですが、県の強化選手となっているのですが、特別強化選手の中で自分が一番年齢が上なんです。自分の中ではリオ、東京、その先も生きていく限り…という思いがあります。もちろん東京に決まったことでモチベーションが上がったのは事実ですが、それよりも「やれる限りやりたい」という思いがあります。若くて自分より力のある人が出てくれば変わるかもしれませんが、自分は56歳ですが、今のところ年齢のことはまったく気にしていません。

前回欠席だったこともありますが、今日、こちらの東京オリンピック・パラリンピックに向けてという資料を拝見してほんとにすごい活動をしていくんだなと驚いています。この分量の計画を実行していくには恐ろしいほどの人材、マンパワー、時間が必要なんだろうなと。

ロンドンオリンピックに出たときにカルチャーショックを受けました。パラリンピックの開会式に出たのですが、私の家族もその盛大さにびっくりしました。アーチェリーの競技は数千人分席が左右にあり、オーロラビジョンがありました。一般市民がぎっしりで、イギリスの選手が入場したときに歓声もものすごく何と聞こえなくなりました。ところが競技が始まったとたん、静寂に包まれるのです。こういう経験は初めてでした。カルチャーショックを受けました。別の日本選手への応援も素晴らしかった。そこで思ったのはイギリスはいろいろなスポーツ発祥の地ですよ、ですからこういうスポーツに対する姿勢というのはお国柄なのかも知れません。果たして日本でこのような対応ができるのだろうかと思いました。しかし、海外遠征にイタリアやドイツ等、何度も行っていますが、他のヨーロッパ諸国はイギリスほどのマナーでは無かった。今日この推進計画や資料を見てなるほど、と思ったのは開催国はやはり

大変な努力をするのだなど。この文化プログラムですね、17万回。そういうことだったのか、努力の積み重ねなのだと改めてここで思いました。

大学の連携、「大学コンソーシアム」などは素晴らしいと思います。こういう機会が無ければ、松戸を意識して、市内大学が連携することなどなかなかないですよ。でも協力したときの力はすごいと思います。千葉県の身障者大会では学生の力なしには考えられません。パラに関して言えばボランティアがなければ成り立ちません。

話が飛びましたが、こちらの提案、素晴らしい取組みだと思います。

○長江会長

大変重要なお意見をいただいたと思います。「実際誰がそれを動かしていくの？」という点で、先ほど橋口委員のほうからご意見のあった、大学でのボランティア経験つまり若手の担い手育成、また市民のボランティア参加など、地道に努力をしなければ支えてくれる人も増えていかない。いい経験、一生の思い出になる経験をしていただくチャンスを皆さんにどう仕掛けていくかというご提案となったかと思います。

スポーツの面から、岡本委員、いかがですか。

○岡本委員

先月体育協会のほうで七草マラソン大会に関わりました。ルーマニアの招待選手が2人参加しました。これはスポーツ文化交流協会の声かけで、あそこまで発展しました。2017年度計画にもスポーツ国際交流が載っているのですが、ボランティア育成も含めて、市民にお知らせして募集していく。これまでも推進行動計画に沿って我々が一生懸命やっていることがPR出来る。これだけの事をやっているのに、市民にあまり知られていない現状があるので、これが伝わる様になれば良いと思う。ルーマニアの選手が参加した、これは大変よかったと思うのですが、これを将来的に事前キャンプの誘致にどうつなげていくのか、我々のほうでどのように働きかければ進んでいくのか、今後どうしていったらよいのか、と感じています。

あとは来年度の予算をどのように使っていくのかということです。施設の大々的な改修などは無理でしょうから、現在ある施設をどのように使えるように持っていくのかなど考えなくてははいけません。

○長江会長

来年度予算(案)の内訳は、啓発事業 120万円、教育事業 450万円、スポーツ関連事業 530万円、推進会議関連経費 36万円と聞いております。一番大きなものがスポーツ関連ですね。次に教育事業ということで子どもたちへの教育とか市民啓発がここに入ると思います。

○長江会長

施設の充実の費用は今回の予算 1200 万円の枠内には入っていないのですね。

○事務局

はい、こちらには全く入っていません。今後の検討課題となります。

○長江会長

さて、太下委員からは文化プログラムと大学連携、橋口委員からは医療関係、スポーツ、斎藤委員からはボランティアの提案、岡本委員からはスポーツ関係のご意見を承りました。ルーマニア、オランダの話をうかがいますと、4つの大きな柱のうちの3つ目、国際化が大きな課題となりそうですね。

飯沼委員から何かご提案ありますか。

○飯沼委員

計画そのものが完璧に近く、すばらしい。こちらに全部盛り込まれています。今お話にあったルーマニアのように先方から積極的に働きかけてくるところなども出てくると思うのです。今後どういう国と対応していくか、松戸としてどのようにオリンピックを迎えて国際化をすすめていくのかを考えていかないといけないと思います。私は教育的な立場から「オリンピックをどのように国際化に役立てていけるかな」と考えています。教育面でオリンピックを国際化の為の大変大事な計画として受入れられたな、と思っています。

長江会長もご出席された外交団との交流会、34カ国52名の方がいらっしゃいました。私はたまたま同じテーブルのアメリカのご夫妻、奥様は台湾の方で、経済関係の方だったのですが親しくお話をさせていただきました。かなり松戸に興味を持たれて「松戸にもっと積極的に協力をしたい」とおっしゃっていただきました。国際交流協会では異文化理解の為のプログラムとして毎年世界各国の話を英語で聞いてみようという企画をしているので、そのお話をいたしましたところ興味を持ってくださいました。そこで早速アメリカ大使館に出向き話をすすめました。結果的に公式にお受けくださって、2月3日に松戸に来てくださいました。英語でお話が、1時間半、英語で質問して、30分という形でしたので、はたして松戸にこのような企画に人がどのくらい集まるのだろうか心配でした。ゆうまつどで50名の定員に対して、80名以上の申し込みがありました。シニア層が中心でしたが若い方もおり大変うれしく思いました。中でも一番うれしかったのは、今後通訳や松戸の文化紹介などのお手伝いをしてもいいですよというボランティアメンバーが集まったことです。今回交流した方々、彼らは松戸が東京から近いことにびっくりし、相撲部屋や戸定邸、梨園などに触れている文化に触れ、松戸の人の親切さに感心しておりました。

今後これから、ボランティアや松戸の特色をどうするか、しっかり具体的にどうやっていくのか、何処にお願いし、誰がやるのか、相談していく必要があると思います。カヌーの話もありますが、松戸ではほかにも市民が楽しんでい

るスポーツがあるので、もっと盛り上げて行きたいと思います。

ひとつ提案があるのですが、21世紀の森と広場をもう少し利用できるようにする。あれだけ立派なスペースがあるのですから、ホールは立派なものがありますが、博物館ですね。縄文時代から現代に至るまでの松戸の歴史や、今後も見通したものを、英語でも説明して、外国の方が楽しめるような環境にして、海外の人に喜んでもらうようにする。そうした企画ができないでしょうか。やさシティ松戸の歴史的な紹介から将来的なビジョンが打ち出せるようなものも、考えて頂きたい。

最後に大学生のボランティアが一番大事です。同時にシニアや外国人のボランティアの確保も大切だと思います。それはいつかやる、ではなく今すぐにもやらなくてはいけないかなと思っています。

○長江会長

国際化に向けて、27年度の事業をお役立ていただきアメリカの大使館のご協力でイベントを組まれた。それが見える化していないのがもったいないですね。例えば「東京オリンピック・パラリンピック やさシティ おもてなシティ」のホームページがあったり、フェイスブックがあったりすれば、常に情報発信をして、皆がスマホやタブレットで簡単に見えるとか、ボランティアに手を上げてくださった方にマーク入りのかわいいカードなどを認定証として渡し、ただいまボランティア 何人と言ったような数字の積み上げが目に見えるような工夫ができないでしょうか。

2番目の柱の地域活性化ですが、松戸にはさまざまな産物があり、また工業団地もありますよね。薄葉委員、地域産業振興という視点から地域活性化についてご意見いただけますか。

○薄葉委員

前回欠席したものですから、このたび資料を拝見してこのようなことがあったのかと感激している次第です。ただ、会長が言われたとおり市民はイベントがあったことを知らない、だから話題にならない、そういった事実があります。10万人外国人が来るとなると中小企業、事業所でどう対応しようかという話になるかもしれませんが、10人程度じゃ話題にもならない。なのでご質問の内容については現時点では何も検討しておらず、話は進んでいません。

ただ、27年度の報告をうかがって思ったことは各論＝4本の柱がしっかりしておりすばらしいですね。例えば人材育成。オリンピック選手が来るよ、という1回限りのイベントですと、それ一回で終わるのですが夢の教室はシリーズになっていますね。全ての学校で行われるのであればすばらしいと思います。

それから、地域創生、地方活性化と言われますがその前に外国人が来たときに街をひとりで歩けるか。案内表示板もそうですしインターネット環境の整備。

パラリンピックに関すればバリアフリー。基本中の基本ですよ。バリアフリーになっていないのは松戸駅くらいですよ。

それから国際化の推進は、将来の松戸のキーワードだと思います。日常会話までとは言いませんから道案内くらいは松戸市民全員ができるようになるとかね。

そしてスポーツ文化。心と体を鍛えるスポーツ、集団活動も学ぶことができる。これら4つの各論に関して、私のほうから付け足すことはございません。

ひとつ27年の報告を聞きながら思ったことは役所に、100いくつかの課がありますね。ここで管轄していらっしゃるのでしょいかね。横のつながりがきちんとできていると感じました。

○長江会長

ありがとうございます。商工会議所でも話題になるように見える化していかないとイケませんね。

○薄葉委員

一部不動産部門で話題になったことがあるんですよ。それは泊まる場所がない、という話です。

○長江会長

そうですね、泊まる場所は大事ですよ。民泊しないといけなくなりますものね。

○薄葉委員

誰も来なければ民泊も必要ないわけで。私部会に呼ばれまして説明をしたのですが、その際25もの質問が来ました。そのくらい皆さん興味があるんですね。

○長江会長

身近な国際化という点では、「言葉」の点でも、そういった意識を育てながら、気軽に受講できるシステムがあるとか。例えば駅前で、一番近いところで聖徳で、外国人の先生もいますし、国際交流協会とコラボして、何かできるかも知れません。また、商工会議所に出向いて行くとか、連携がキーワードで、つないでいく、ということができないのではないのでしょうか。

薄葉委員のご意見は「サイン」の問題ですね。街の中にどれだけ外国人にわかりやすいサインがあるか。それから観光案内所、駅を降りれば観光案内があるとか、いろんなことが英語版になっているとか。そしてそこに英語がわかる職員がいる。松戸市役所とか観光協会、国際交流協会など、ボランティア的な人がある。それが市民に見えることで「あ、オリンピックに関係して何か変わったな」と感じられるようになる。キーになるところは、駅ですから。松戸は鉄道が交差する駅がいくつもあります。松戸、新松戸、東松戸、新八柱。そういうところで、目に付くところに何かがあれば、特に東松戸は成田空港から来

ますので、そういうところで見える化すれば、PRにもなるかと思います。
スポーツ関連で、尾崎委員、如何でしょうか。

○尾崎委員

見える化ということに関して言えば、琴奨菊関が優勝して、いろんなところにポスターがある。費用の問題は別にして、いろんなところをメッセージの発信場所にしたり、発信する人に、もっとユニークさを持つとか。松戸にゆかりにある歴史的な人物から現役バリバリの方まで、うまく活用していくという事を、ポスターを見ながら、佐渡ヶ嶽部屋は松戸市にあるんだ、と気づいたりすると、ユニークな工夫が必要なのではないかと思いました。これも費用的な問題はありますが、ケーブルテレビとかラジオを通じた定期的なメッセージを発信する事も、時機を見て増やしていけばよいかと思いました。

我々スポーツメーカーですのでビジネスに直結しているわけです。リオが終われば一気に東京モードに切り替わります。合宿地、事前キャンプ地の情報が一気に世界に流れます。1月27日に第一次ホストタウンが発表されました。我々がお手伝いをした燕市が、ホストタウンに登録していて、モンゴルのアーチェリーのキャンプ地を引き当てました。リオの後の動きを想定しますと、手続きは複雑なんですけど、ホストタウンの登録を早い段階で行うことは、国際交流の大きなパイプになると思いますので、既に取組んでいると聞いておりますが、我々もホストタウンに対してキャンプ地に関する要件の提案等をしておりますので、お手伝いできると思います。

スポーツの普及、スポーツ科学の活用については、今、すでに松戸でおこなっている、例えば10月10日前後の市民への運動に関するイベントや、あるいは産学官で、大学も組んだ中で、継続していくツールの中に組み込んでいかないと、イベント型にするとスポンサーの事情などでできなかつたり、人が集まらなかつたり、ということがある。スポーツが、2020年以降も市民の中に根ざしていくような活動の中に、スポーツの体験の場をセットしていくことが大事ではないかと思います。

パラリンピック関連で言えば、車椅子ラグビーやシッティングバレーの体験。数人の障がい者以外は健常者がメンバーに入って競技している。そういうこともあまり知られていません。体験することで知ってもらおうということも考えられるのではないのでしょうか。

我々はバレー、体操、バスケットを主軸にしているメーカーですが、パラリンピック競技としてやシッティングバレー等も、いろんな環境面でお手伝いできればと思います。

大きな4つの方針を、いかに継続的に、年を重ねるごとに効果が見えてくるよう進んでいくと、今日改めて思っていますので、松戸で企業活動している一

員として、こういった事が出来ないか等、遠慮なくお申し付け頂ければと思っています。

○長江会長

具体的なご意見、ありがとうございます。「知らない」ということを市民の皆さんに具体的にどう提案していくか、その手法についてここで考えていく必要がありますね。

ここで私のほうから、議長というよりは一委員の立場として意見を述べさせていただきます。ひとつは先ほどより申し上げております、情報の一元化、見える化。ことあるごとに発信していく必要があると思うのです。なぜかと言いますと、去年の佐藤真海さんの講演会、とてもおもしろかったです。感動しました。でもそのときに JCOM さんやコアテレビさんの取材があれば、まとめ映像＝音声だけではなく文字を入れたものなども作っていただけたのに、と残念に思いました。ケーブルテレビで取材していただきますとデイリーニュースで流れますので市内のお年寄りなどにもわかりやすく情報が届くのではないかと思います。佐藤さんの「限界に蓋をしない」という言葉に一番感動しました。子どもにも伝えたいと。テレビや web などすべてのコンテンツを使って常に発信していけたらよいと思います。

それから産学官民。連携するためには、2年目はその為の場を作ってもらいたい。太下委員からあったように、4つの大学で大会組織委員会に行くのであれば、声をかけて、大学として出来ることを学びあう、一緒に考えていく。お金のかからない事の中で、みんなが体験して行けば、必ず物事は変わってくると思います。

それから国際交流について、例えば冬で、ねぎが良いとなれば、相撲部屋の佐渡ヶ嶽部屋の協力でちゃんこ鍋を作る、部屋には琴欧州さんがいますので、松戸はブルガリアとネットワークができています。琴欧州さんは活躍し、鳴門親方となっていますが、この事も皆さんにもっと知ってもらいたい。また、文化の面でいえば、琴欧州さんが優勝した時には、ブルガリア饅頭が商品化されました。このように松戸は、いろんな商店が沢山あって、すぐに商品化する事が、お金をかけないで出来る。こうしたことを出来るだけ仕掛けて行って、ニュース化する事が大切です。

それから太下委員もおっしゃっていた文化プログラムですが、小学生、中学生、高校生、シニア…というように世代ごとにできることがあると思います。また、文化プログラムについての市民劇場での太下委員の講義についても、内容が他に伝わっていないので、他にどうやって伝えて行けばよいか。例えば小中学校などで子ども向けに、保護者向けに同じ講座を開いてもよいですね。

また聖徳大学には、冬季オリンピックにリュージュの監督で参加された先生

や、1964年の東京オリンピックに関わった方も現役でいらっしゃいます。そういった先生や斎藤委員、こうした方が松戸にはたくさんいらっしゃる。そういう方たちの価値をいかに共有するか、という事を仕掛けて行けば、予算が無いからできない、ではなく、できることから始めていけるのではないのでしょうか。

それから薄葉委員のおっしゃった宿泊場所の問題。もし民泊を進めるのであれば、もう今から関係組織が協力して考えていかないとはいけませんね。

また、先日ルーマニアの方がいらした際に、昼食などその辺の居酒屋やファミレスなどで済ませたそうなんです。あらかじめ言っただけであれば大学のレストランでおもてなしもできたのに、と思いました。外国の方に他の都市にはない松戸のあたたかいおもてなしを味わっていただくために民間や観光協会とも協力して、例えば松戸オリジナルのお土産をご用意するとか。皆が相互に協力して、みんなで出来る事をつないでいくことで活性化させていきたいですね。

さて、ここからはこれまでの意見について皆様から個々にご意見いただきたいのですが。太下委員、ロンドンでは17万件の実施があった文化プログラム。松戸でできるアイデア等がありますか。

○太下委員

松戸でもいろいろ出来ると思います。ちなみに日本では、文化庁が20万件やると言っています。しかし、まだ認可、認定の方法等が決まっていない状況です。ただ、排除するやり方ではなく、なんでも取入れていく事になると期待していますので、たいがいのものは通るのではないのでしょうか。

○長江会長

例えばサイクルツーリズム。松戸は高低差があるので、市内で楽しいサイクリングコースができるのではないのでしょうか。

○太下委員

駅の周辺でマッドシティという形で、アーティストの方が住みついていますし、結構ポテンシャルはあると思います。

○長江会長

料理屋さんや、人形屋さんの壁面にアート作品が描いてあったりね。

○太下委員

そういったものも、市として進める体制も作ってもらいたいと思います。

また、全国で20万件の文化プログラムを、文化庁が認定するとなると結構な事務量になる。たぶん無理だと思います。そこで、文化庁は今、そうした認定業務自体を自治体に担ってもらえないか、という方向で考えています。そして、その認定をしてもらうための専門人材の雇用を文化庁が助成します、というけっこう大型の事業を、来年度向けに広報が始まっていて、来年度に関しては、

都道府県か政令指定都市だけがエントリーできるようになっていますが、何れ、多分さらに来年度、2017年度にはさらに拡大する、次第に基礎自治体にまで拡大するものと期待しております。

そうなった場合には、松戸も手をあげて、文化プログラムをサポートする専門人材を雇用して、文化プログラムを進めて行く事が良いと思います。

○長江会長

飯沼委員、国際交流の分野での取組みは、如何でしょうか。

○飯沼委員

通訳もそうですが、ホームステイ。そのボランティアを募ったりする事。通訳とホームステイ。ホームステイに関しては、不動産業者にも協力してもらって、空家を利用する方法。日本の建物で、そのまま残っているものもある。日本の文化に触れたい、という気持ちに対応する。そのままで良いと思っているので、有効活用できるようにして、外国人が家を借りるのは大変だと聞いておりますので、不動産業者さんのご理解ご協力を頂きながら進めて行く。

それから、外国の方がお見えになった時、居て楽しめる環境の整備。

戸定邸に行くのにももっと分かりやすくすべきです。特に松戸には、徳川文化を知っていただける戸定邸という場所があります。海外の方は江戸時代に大変興味を持っています。あるいは、21世紀の森と広場の周りに、昔、馬を養成する陣屋があり、牧場もありました。こんな場所は他市にはなく、日本で一つなのです。企業の方にも協力してもらい、盛り上げてせつかくの機会なので、横の連絡を取り合っつながらをもち、情報公開をして何度繰り返しても良いと思いますので、他でもやっていただき、あちこちで取り組みば浸透していきます。インフォメーションセンターも主だったところでやって、どんどん増やしていく。同時にボランティアの希望を募ってリオ大会終了後にでも。とにかく今やれることからやっていくことが大事。

欲を言えば21世紀の森と広場の周りでもいいので、ホテルをつくってほしい。松戸にホテルがないことで、どれだけマイナスになっているか。国際会議でも松戸にホテルが無いから中途半端になっている。

ホテルの計画については、昔からやっているが、難しい。今からでもやってほしい。松戸の将来に関わってくる。オリンピックは世界中から人が集まってきます、各業界からも不便であるとの声を聞きます。松戸も日暮里のように高層ビルを建て、下に役所をつくったらいい。役所が責任もってホテル経営できるような協力をしていかなければいけない。

商工会議所と一緒にやってやる、そのようなお膳立てをして東京大会までに間に合わせる必要はあります。きっかけがないと役所は動きません。

優先順位を決めて、今できることから始めていただきたい。

○長江委員

提案ありがとうございます。他に何かありますか。

○岡本委員

市民にいかに多くオリンピック、パラリンピックに参画してもらうか。ボランティアについても、多くの市民に参加してもらうことで、市民の意識を高めることにつながるのではないのでしょうか。やさシティにつながっていく。

私はスポーツビジネスについても、これを機会に施設の充実ができればよいと思います。オリンピック後も、地理的には東京に近いわけですから、施設さえあればイベント開催などをし、スポーツビジネスの活性化することもできます。スポーツ振興にも役に立つと思います。

○橋口委員

人材育成。人（選手）を呼べる施設が無い。松戸に住み、トレーニングできる環境を整え、居づいてもらい、ヒーローを育てなければと思います。

松戸市からヒーローが出れば応援したくなります。選手が安心してトレーニングできる環境を整えないといけません。松戸駅にも横断幕を掲げる。夢先生は全部他府県の選手です。松戸でそういう選手を育てること。これが一番ダイレクトに市民に響くのではないかと思うのです。

○長江委員

斎藤委員、アスリートとして、何か意見ございますか。

○斎藤委員

パラリンピックで言えば千葉県が、一番強化選手が多いです。なぜかという、船橋にアーチェリーレンジという施設があり、さまざまな面で協力していただいているからなのですが、拠点になるところ、競技できる環境があつて初めて選手の受け入れができます。私は、都内か船橋でしかトレーニングができません。なぜかと言うと障害者の中でも一番重いクラスなので、矢を抜いてくださる補助者が必要なのです。ところがその都内の施設が今年秋に東京パラリンピックに向けて建て直すために使えなくなるのです。今年の秋からどこでトレーニングしようかという状況です。船橋は屋外競技場なので炎天下は命取りになります。さて困ったなど。物を作る時期、タイミングはあると思います。

○長江会長

実情に従った支援が必要だということですね。松戸市でも競技者にもきちんとヒアリングしてすすめていかないとですね。

○尾崎委員

推進行動計画の中に、競技環境の充実、向上といろいろな項目が盛り込まれていますが、理念の次の計画が、着実に実行されるような動きをしないと。先

週福島県郡山市で「生涯スポーツ体力づくり全国大会」というのが開催されました。これはスポーツ庁が発足しての初めての開催でしたが、地方においては縦割りだという意見がありました。要は文科省・厚労省・外務省が管轄するスポーツ庁なのですが地方自治体に落ちるときにはこれは文科省から、これは厚労省から、という風に縦割りなのです。各所属の融合を成し遂げないと壁ができて来ってしまう。この1、2年は進んでいくと思うが、松戸市でも今までの縦割りを横割りにする必要があります。ここの会議もさらに新たな動きに変えていかなければなりません。

○長江会長

そうですね。つなぐとか連携するという動きだけでなく庁内での横の連携が必要だということですね。市役所の他部署の職員さんにも本日の会議に列席いただいています。松戸市はやる気だなと感じています。

○薄葉委員

オリンピック・パラリンピックの開催を知らない人はいないと思うのですが、具体的に松戸市でこれから何が起こるのか。事業者においても自分の中で何が起こるのかと知っていただき、どんなことが対応できるかと考えていただきたい。

○長江会長

松戸市内で具体的に動きが出てきたらビジネスチャンスも含めてすぐに対応していただき、連携できていきますね。

今回の推進会議では、各部署から行動計画について重要なお意見をいただきました。ありがとうございます。

これからいただいたご意見を反映して私と副会長と事務局のほうで今年度中にとりまとめをしたものを責任持って議会に提案いたします。会長一任という形でよろしいでしょうか。

今後の予定について事務局お願いします。

(事務局から説明)

○長江会長

最後に、本委員会ではより多くの意見を吸い上げるということで総合的な話で終わってしまいがちですので新年度以降は部会という形での開催も検討しております。また改めて提案させていただければと思います。

次回会議は4月以降になります。ありがとうございました。